

多摩市地域自立支援協議会 令和7年度第2回 会議録

日 時	令和7年10月14日（火） 18:30～20:30		場 所	多摩市役所 301・302 会議室			
出 席 者 (敬 称 略)	委員 ※敬称略	畔上、市川、江種、大石、折笠、北山、佐藤、清水、瀬尾、高松、中原、並川、藤吉、松澤、山崎、吉井					
	障害福祉課 (事務局)	伊藤、平松、相良、宇都宮、上野、中村、有賀、加藤、榎本、田中、仙北屋、竹田、井上（国立障害者リハビリテーションセンター）、澤江（筑波大学）、戸田（筑波大学）、山田（株式会社日本総合研究所）					
欠 席 者	委員 ※敬称略	藤野					
記 録 者	事務局						
項 目	開会 1 委員の紹介【資料1】 2 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP：エスアイピー）【資料2】 3 児童発達支援センター【資料3】 4 多摩市障がい者基本計画における令和9年度からの達成状況の評価方法について【資料4】 5 多摩市福祉に関するアンケート調査について【資料5】 6 障害福祉分野における避難行動要支援者のための個別避難計画の作成【資料6】 7 その他 閉会						
	詳細						
開会	～開会～ 以下、「・」は委員から出た意見						
1 委員の紹介	1 【資料1】						
2 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP：エスアイピー）	事務局より【資料2】の説明。 ・：高齢者への調査は、これを使って行ったのか。 事務局：段階を踏んで行っている。事業者の困りごとをまず聞き、地域の方を集めたワークショップを行った（どこで買い物しているか、何に困っているかなど）、その後モビリティに実際に乗ってもらい話をした。その後、実際に ATM まで行ってもらうなどしている。 ・：基本は歩くスピードで、歩道を走るもの？ 事務局：歩く速度と同じくらいで歩道を長く走れるものである。 ・：一般の道路よりも、まずは施設内などからできるのか。同時進行ができるのか。						

	<p>事務局：実際に吉野ヶ里遺跡のような観光地では使われている。多摩市では生活の場面での利用を検討している。まず外出先にニーズがあるのであれば、そちらからやっていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：感想として、無いものが新しくできるのは良い事。利用する際の料金はどのような想定か。 <p>事務局：タクシーのような形での利用は難しいと考えている。公的なものと少しの負担の間くらいの金額と考えている。利用の仕方として、月額払えば何回でも使えるようなサブスクリプションも想定している。値段自体は未定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：視力の無い方が使うのに補助などがあるといい。通院というのも重要で利用している方が多い。通院については行政とのつながりも薄いので、そことつなげてほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ・：精神障がいをもつ方も移動が難しい方がいる。そこも想定されているか。 <p>事務局：想定している。通学の面は発達障がいの方を想定。通院やデイサービスなども発達障がいや精神障がいの方を想定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：知的障がいの方は自分では動かせない為、介助者が動かす形になるか。 <p>事務局：基本は自動走行。ルートを設定し、そこに向かう。乗車が可能であれば、知的障がいの方でも利用できる。障害物や、停まりたいところがあれば止れる、危険な状態になった場合、カメラで管理してセーフティネットを保つこともできるように進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：雨の際は？ <p>事務局：大雨は厳しいが、小雨程度であれば大丈夫なようにしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：多摩はアップダウンが激しいところが多いので移動ができるようになると嬉しい。 <p>事務局：貝取でのこぼこした道でも実証している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：高齢者が外出するといった時、エレベーターがない高層の場所に住んでいる人が多い。まず屋外に出ることが難しい住宅事情を持っている人はどう想定しているか <p>事務局：現段階で階段は想定されていない。今日から5人の方に使ってもらっているが、階段は何とかなる方が使っている。なるべく多摩市の状況に合わせていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：多摩市で何か実証のプログラムはあるか、ホームページなどの情報から進捗を追えるようなものはあるのか。 <p>事務局：実際に貝取、豊ヶ丘で10月29日まで実証実験中。この後、12月に永山エリアも計画中。通学・外出での移動についての話を詰めていきたい。ホームページはSIPの取り組みの欄、たま広報からも情報を発信している。</p> <p>事務局：今後、取り組みの進捗に関して自立支援協議会でも報告していきたい。</p>
--	--

3 児童発達支援センター	<p>事務局より【資料3】の説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：3つある。1つめが、ひとりじゃないよシリーズの中の親の会とはどのようなことを指しているのか。相談できる人は足りているのか。2つめが、島田療育センター等との連携をしているとのことであるが、今後センターに職員を何人くらい配置するのか。児童発達支援センターによりなにがかわるのか。3つめが、あらたな課題で高校生以上の相談場所。個人的に思ったことであるが、リカバリーカレッジやピアサポートーやNPOの力を借りることで切れ目ない支援ができるのではないか考えている。 <p>事務局：親の会は、発達支援室に相談に来た保護者や、広報等で周知し、申し込み無しで保護者同士がつながる場として運営。市の職員も入って運営している。島田療育センターは現在も連携しながら、ひまわり教室の運営等をしていただいている。</p> <p>若い方へのサポートについて、地域の方々の支援をもらいながら支えていきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：学校との連携もしているのか。 <p>事務局：現在も教育センターと連携し、学校の巡回相談を引き続き続けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：職員の体制は変わらずということか。 <p>事務局：発達支援室で運営しているが体制については変わらない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：発達支援センターの支援体制の3つめ柱の「身近な地域で安心して育つ・成長することができる地域づくり」について、保護者の話を伺う中で子どもが安心して遊べる場所が少ないと聞く。児童館でおもちゃの取り合いになってしまふ。公園でも遊具の順番を待てない。そのため人気がない公園に行ったり、夕方に行くしかないということを聞く。地域の中で親子が安心して過ごせる場所をこの地域づくりの中で考えていきたい。 <p>事務局：なぜ発達支援室から発達支援センターにするのかについて、国の方でも法律が変わってきており、発達支援室では事業の取組がしづらいということで国から発達支援センターを促進するという話ができている。多摩市はどちらかというと遅れている。一番大きいのは補助金や交付金が国から降りてくるので、財源的な面でメリットがある。センター化することでより充実した事業体制を組むことができる。諒訪教育施設における一體的支援においては、学校に通えない人に対しての施設を置くことで、教育と福祉を一體的に支援していくといふこと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：特に高校や大学の発達障がい者は社会的にも支援が必要。高校年代から発達障害が出るケースが増えてきている。一方で相談の場がない、どこに相談したらいいかわからないという声もある。様々な課題はあるがアウトリーチのような働きかけをしていくことが重要であると思う。 <p>中学校以前から発達の相談をしている方はそれ以降も相談先を持っているので、学校の学びが受けやすくなるので、中学校までの相談を広げることも将来に向けて重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：発達支援センターは市役所内に設置？それとも委託？保護者通しの話し合いの場が
--------------	---

	<p>減ってきてるので、そういう場が増えていくとよい。</p> <p>事務局：発達支援センターとしては直営。療育に係る部分のみ委託。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：専門相談の作業療法士や言語聴覚士等について、医師による診断や投薬についてもご対応いただけるのか。年齢制限や利用回数の制限はあるのか。 <p>大人へのトランディションはどのように考えているか。子ども家庭センターや児童相談所や保健所とのつながりも必要であると考えているので、そのあたりについても記載していただきたい。</p> <p>医療的ケア児で支援が入っていても、保護者が社会的に孤立していたケースがある。インターネットで相談できるなど、相談の場が広がるとよい。</p> <p>事務局：専門相談については、診断や投薬は行わず、相談に限って行う。連携先について、地域活動支援センターや就労先等と連携を広げていきたい。</p> <p>専門相談の対象は未就学児を考えている。</p> <p>つながりを大切にし、保護者が孤立しないように皆さんの協力を得ながら進めていきたい。</p>
4 多摩市障がい者基本計画における令和9年度からの達成状況の評価方法について	<p>事務局より【資料4】の説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：プロセス評価も方法のひとつだと思う。もう一つは各部署から実施したことを一例でもいいので出してもらう。昨年もタブレット通訳の設置があったが、こういったものが一つでもあるといい。どこの場所にどのくらい設置したかなど、どういうことをしたのか事例としてあると目に見えて伝わるのではないか。
5 多摩市福祉に関するアンケート調査について	<p>事務局より【資料5】の説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：追加してほしい項目として、災害のところ。個別避難計画を作つてほしいか？といった項目があるといいのではないか。障がいを持っている方で、知的でも身体でも重度の方を対象にされて作られているが、重度でなくとも、災害時一人で行動できない方も居るため、入れた方が良いのではないか。 <p>項目を減らしてはもらったが、回答率が上がらない。電子でのアンケートもあったが、答えてもらった方に、生活保護の方がもらえるような有料のごみ袋を配布するなど、そ</p>

	<p>ういったことがあれば回答率が上がるのではないか。</p> <p>事務局：個別避難計画について、おっしゃっていただいた通り、優先的に進めていくので比較的軽度の方はスタート段階で対象としていない。ただし、軽度の方についても避難行動や避難先について重要だと認識をしている。無記名回答を前提としているため、ニーズ把握について慎重に検討していきたい。</p> <p>回答率について、記入をサポートしてもらうため、事業所へ向けて協力をお願いしていく。今後回答率を上げるための方法を考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：文章を書いたり、理解したりするのが難しく、あきらめてしまうところがある。手話で聞かれれば手話で返せる人もいるため、そういった方法も検討してほしい。 ・：回答率について、具体的に、どのくらい低いのか。部位別に何か工夫を考えているか。 ・：対象者について、医ケア児が対象に入っていない。多くは該当するが、一部支援を受けていないなどとして対象に含まれないものがある。 ・：就労についての項目があるが、そのあたりのニーズをどう集めるか。通園通学、通所先など以外にも通勤で困っていることがあると思うので、どのような方法でニーズを把握するか検討してもらいたい。 <p>事務局：文を読むことが難しい方への対応はどのような方法があるか検討していきたい。回答率について、前回 35.4%となっている。医療的ケア児については障害サービスの利用者の中に入っているか確認してニーズ把握を検討する。</p> <p>通勤についてのアンケート項目についても検討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：今後の予定、今回の意見の反映などの予定は <p>事務局：次回協議会で共有予定。</p> <p>事務局より【資料6】の説明。</p>
6 障害福祉分野における避難行動要支援者のための個別避難計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・：アンケートと同様に回答率が低いように思う。 ・：人工呼吸器を使用している方についての個別避難計画とどのような関係性があるか。また、24 時間人工呼吸器を使っている方以外にも、電気がないと生活ができない人もいる。洪水浸水想定地域の方だけでなく、呼吸器や吸引が必要な方についても対象に検討してほしい。 ・：自分は愛の手帳4度で、一人暮らしあししているが、個別避難計画を作つてほしい。 ・：3つ質問がある。該当する方はどのくらいいるのか。提出記述が12月になつて

	<p>るが、事業所への依頼、作成スケジュールなど。計画の見直しについて相談とあったが、計画の変更は結構起こりうるのではないか。全体のスパンを教えて欲しい。</p> <p>事務局：回答率の工夫について、計画作成の意義について周知をしていく必要がある。たま広報や、対象者へ個別に送付。配慮が必要な内容は障害によってさまざまであるため、スムーズに進むよう、回答がない場合は市からも働きかけるなど検討していきたい。2つ目、人工呼吸器を持っている方については、「人工呼吸器使用者災害時個別避難計画」というものがある。今回の対象とは別に、こちらのカテゴリで進めていくといった形になる。また災害地域外の方について、電源設備が必要な方などは先ほどお伝えした通り、別途検討を進めていく。</p> <p>3つ目、愛の手帳4度の方も不安に思われる方も多いと思うが、まずは優先順位を付けて、改めて考えていくべきだ。</p> <p>4つ目、対象の方は260名程度。計画作成スケジュールとして、10月下旬を目途に施行、郵送で届く予定。来年度以降も続けていく予定だが、予算の関係で今年度中に契約等進めていく。</p> <p>全員が対応できないと思うため、対応できなかった方については来年度。 自宅の状況、福祉サービスの利用等で対応が変わってくるとは思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：事業所と契約した後、事業所はどのくらいのスケジュールで作成を行うのか。 <p>事務局：3月末までに計画の作成を終え、4月5月以降での対応を想定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：定期での見直しはない？ ・：対象者に精神障がい者も入れてもらいたい。精神障がい者にも苦手なことや不安なことがある為、優先順位もあるとは思うが、入れてもらいたい。 ・：対象者の中に、洪水浸水想定地域とあったが、そこに住んでいるではなく、この中にある事業所に通っている人も対象になるはず。 ・：2点、一点は福祉事業所が計画を作るのか、避難誘導はどこが行うのか。災害、震災の場合は、通院、通学中の場合についての対応を知りたい。 ・：可能であればそれぞれの方がどこに避難すればいいのかを想定できているといい。丁寧な計画もいいが、間に合わないかもしれないため、セルフでも進められたらいい。どういった備えをすればいいか、ハザードマップの確認などの研修を行っていただけるといい。精神障がいぼるしえ？さん、所沢でも行っていたが、そういう研修を多摩市でも行ってもらえるといい。 <p>事務局：計画見直しのスパンについて、R5から介護保険で先行して行っている。高齢分</p>
--	--

	<p>野では毎年更新している為、倣いたいところだが、ケアマネージャーの制度についての違いがある。障がい部門はケアマネージャーがついているところが非常に少ない。委託でなく市の職員が多く対応する必要がある。1年ごとを理想としつつ、予算の関係などもかんがみて今後対応していきたい。</p> <p>精神障がいの方についても必要といった認識はある。しかし市のマンパワー的なところもあり、まずは通知案の方に限定し、優先順位を見ながら検討を進めていく・</p> <p>災害がいつくるかわからないといったところで、市が個別避難計画を作成するにあたり、在宅の方から進めている。通所先についても、事業所連絡会などで意見を聞きながら考えていきたい。</p> <p>計画内容の周知について、計画のひな形の公表は検討する。研修についても、BCPの関係も踏まえ、市からどのように伝えればよいか検討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・：個人情報はどこまで広まるのか。自治会に行くのか、民生委員まで行くのか。どこにも通所しておらず契約もしていない。事業所とどこかしらで結びつく必要があるのか。今回洪水の地区を想定しているが、誰がどのように決めるのか。契約した事業所が決めるのか。 <p>事務局：同意について、策定に必要な範囲、市の方で収集、ケアマネが居ればそちらにも。支援者に当たる方（家族、地域の方）が避難支援者に当たれば共有先として想定している。同意書の中に、どういった項目、範囲について話すか同意いただいた方にのみ共有を行う想定。</p> <p>利用事業所があれば、そうした事業所と共有する。いなければ市が把握できるように具体的に検討していく。</p>
7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・：公民館市民企画講座第2回として、旧優生保護法との闘いについて、堤愛子さんから話してもらう。手話通訳、要約筆記も依頼してある。 ・：市川委員が退任されるためご挨拶 <p>～閉会</p>